



—東地中海地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：イスラエル軍兵士の解放とパレスチナ人囚人の釈放（1）
研究員 江崎 智絵

2011年10月18日、イスラエルとハマースとの間で、捕虜と囚人の交換が行われた。ハマースは、2006年6月から拘束していたイスラエル軍兵士ギラード・シャリートを解放し、イスラエルは、同国の刑務所に服役していたパレスチナ人囚人477名を釈放した。

これは、エジプト及び独国の仲介によってイスラエルとハマースが締結した合意に基づくものであった。10月11日に両者によって確認された同合意は、ハマースがシャリートを解放することと引き換えに、イスラエルは、1027名のパレスチナ人囚人を二段階に分けて釈放するというものであった。

10月18日早朝、イスラエルの複数の刑務所からパレスチナ人囚人477名を乗せたバスが出発した。同日付アルジャジーラ放送（電子版）によれば、同囚人の内334名がイスラエルとエジプトとの国境にあるケレム・アブーサーレム通行所に、96名がヨルダン川西岸地区の刑務所に、女性27名が西岸地区のラーマッラーに近いイスラエルの軍事検問所に向かうことになっていた。最終的に、300名以上の囚人がエジプト経由でガザ地区に向かい、ガザのハマース指導者ハニーヤに迎えられた。残りの囚人は、西岸地区に帰還し、アッバース自治政府（PA）大統領の歓迎を受けた。

一方、ハマースに近いとされるパレスチナ情報センター（電子版）は、10月18日の日本時間で午後3時頃、緊急速報としてハマースのカッサム部隊がイスラエル軍兵士シャリートをエジプトに引き渡したと報じた。エジプトに引き渡されたシャリートは、通訳を介し、同国国営テレビによる単独インタビューに応じた。そして、シャリートは、イスラエル当局関係者と共に同国に移送され、病院で検査を受けた後、家族と再会した。

10月18日、ネタニヤフ首相は演説を行い、首相になってからの2年半、シャリートの解放が最も根本的かつ複雑な使命であったと述べた。同首相は、日々軍人を送り出す身として、シャリートの解放によって相互に責任を果たすことができたとした。その上で、同首相は、

イスラエル市民の危険を最小化するために、ハマースの幹部を刑務所に留まらせると共に、釈放される者がイスラエル市民を再び攻撃することができないよう、その大多数を追放処分もしくはユダヤ・サマリアの外に滞在させることをイスラエルの要求として宣言したと述べた。そして、同首相は、イスラエルがテロと闘い続けると明言した。

在外ハマース指導者のマシャアル政治局長は、10月18日、記者会見を行い、囚人の釈放が特定の政党の利益を反映したものではないと述べた。また、同局長は、囚人の釈放が和解の実現にも寄与するとして、アッバース PA 大統領にカイロで和解協議を再開するよう呼びかけた。